



武蔵大学ダイバーシティセンターのロゴマーク決定 —学内公募・投票の結果、社会学部生の作品に決定—

武蔵大学（東京都練馬区／学長 高橋徳行）は、2023年4月に開設したダイバーシティセンターのロゴマークを学内公募および投票により決定しました。ロゴマークは今後、ダイバーシティセンターの取り組みの周知など広報活動に活用していきます。

ダイバーシティセンターのロゴマークについて

本学の学生、教職員による投票の結果、メディア社会学科4年生の寺田裕一さんの作品がロゴマークに決定しました。



ダイバーシティセンターロゴマーク



賞品授与式にてダイバーシティセンター長（左）と受賞者の寺田さん（右）

■ ダイバーシティセンター長より一言（大野早苗 ダイバーシティセンター長）

ダイバーシティセンターは学生のみなさんをサポートするため、2023年4月に設立されました。当センターを広く知って頂くために今回の公募を実施しました。寺田さんの作品は、親しみやすいデザインで、「武蔵（634）」の文字がさりげなくあしらわれており、ロゴマークとしてふさわしいと思います。ダイバーシティセンターがロゴマークとともに、みなさんに親しまれる存在になることを願っています。

■ 受賞者インタビュー（メディア社会学科4年生 寺田裕一さん）

多様性を表現するにあたって、誰もが違うものを持っている「指紋」から着想を得ました。指紋を武蔵のシンボルである白雉（しらきじ）に見立てて、武蔵大学らしさを表現しています。色は、武蔵大学のスクールカラーである緑をベースに、グラデーションで多様性を表しました。ロゴマークを近くでよく見ると、武蔵を表す634の文字を見つけられると思います。これには「相手にしっかり向き合うことで、一見わかりにくい個性や特性も見つけ、尊重していこう」というメッセージを込めています。

ロゴマークを制作したのは初めての経験で、オリジナルなものを作ることの難しさを感じました。まさか自分の作品が選ばれるとは思っていなかったこともあり、とても嬉しいです。



寺田裕一さん
（メディア社会学科4年）

武蔵大学ダイバーシティセンターとは

武蔵大学ダイバーシティセンターは、すべての学生の自分らしさや特性が尊重され、学生生活を送ることができる環境を整えることを目的として2023年4月に設立されました。センターには専門的知識を有するコーディネーターが在籍しており、障害・病気、セクシュアリティ、多文化等に関する相談対応や支援を行っています。

また、武蔵大学ダイバーシティセンターでは、入学後の学生生活はもちろん、障害や疾病および怪我などの理由により受験上の配慮が必要な受験生の相談も受け付けています。

—報道関係者問い合わせ先—

武蔵大学 広報部 担当：増田・西（ますだ・にし）

TEL：03-5984-3813 E-mail：pubq-r@sec.musashi.ac.jp

■ 武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から4年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開設、キャンパス内留学の拠点とした。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えたこの年に、新学部となる国際教養学部を開設し、経済、人文、社会、国際教養の4学部9学科となった。

学長 高橋 徳行 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1

